

【ファーストステップFX】

Part1 一流トレーダーへの 道を進む為に

第5章

システムを調べる

株式会社チャートマスター

❖はじめに

【推奨環境】

このレポート上に書かれている URL はクリック出来ます。出来ない場合は最新の AdobeReader をダウンロードして下さい。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等する事を禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものである為、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部を如何なる手段においても複製、転載、流用、転売等する事を禁じます。

著作権等違反の行為を行なった時、その他不法行為に該当する行為を行なった時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行なう等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行なう場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行なう権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わない事をご了承願います。

このレポートを利用する事により生じた如何なる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わない事をご了承願います。

目次

※目次の見出しをクリックすると、その見出しのページに移動します。

❖ 第5章：(1) ——検証って何ですか？——	4
❖ 第5章：(2) ——どうやって検証すれば良いの？——	5
❖ 第5章：(3) ——検証結果データでシステムの良し悪しを考える——	7
1. 勝率と利益率の関係とその用法	8
2. 具体的なシステムの例	10
3. PF（プロフィットファクター）をチェックしよう	12
4. 最大ドローダウンをチェックしよう	14
5. Excel等の表計算ソフトを使って効率的に調べて行こう	17
❖ 第5章：(4) ——検証をすると獲得出来るモノ——	19
❖ 第5章：(5) ——そこまでして検証をする理由——	22
❖ 第5章：(6) ☆★☆第5章のまとめ☆★☆☆	23

❖ 第5章：（1）——検証って何ですか？——

第4章で何はともかくシステムトレードを作ってみたとします。とは言っても、それだけで、「よし！じゃあ、早速トレード開始だ！」とは、なかなか行きません。

では何をしなければイケナイと思いますか？

トレードを開始する前に、そのトレードの良し悪しを検証する事でチェックしなければ行けません。そもそもシステムトレードをする上での第一の目標は、そのシステムが儲かるかどうかです。システムは作ったものの、儲からないシステムであれば、それを続ける必要はありません。儲からなければ、それを一生懸命、やる意味がないのですから。

しかし、取り敢えず、と考えシステムを作れたとしても、作っただけで、そのシステムが儲かるかどうかは分かりませんよね。

ではどうしたら良いのでしょうか？

そうです！だから、「検証作業をしなければいけない」となるのです。後述しますが、検証をする事で、色々な事が分かって来ます。例えば勝率、利益率、PF、ドロウダウン等、様々です。それに、どのように資金が増減して行くのかも分かります。

しかしそれらは、検証をしなければ全く分からないのです。

目で見て、ああ、この食べ物は好きな食べ物だ、嫌いな食べ物だと分かります。ところが、目隠しをされて食べ物を食べさせられたらどうでしょう？

自分が好きか嫌いかも分からないまま食べさせられるのです。それがどれ程、怖いものか分かるのでしょうか？誰だって怖いものは嫌ですよ？

それと一緒に、検証をする事は、その恐怖心を消すための良い処方箋なのです。

[▲目次へ戻る▲](#)

❖ 第5章：(2) ——どうやって検証すれば良いの？——

では実際に検証をして行く形になった時、具体的にどのように進めて行ったら良いか分からないかと思います。

ですので、ここでは検証の進め方、考え方について説明して行きます。

検証の方法には色々あると思いますが、ここでは「紙」を使った検証方法を推奨しています。
※紙が苦手な方は、MicrosoftExcel 等の表計算ソフトでも OK です。

何故、紙が良いのかについて説明をしましょう。

そもそも、人間は「VAK を使って覚えれば覚えやすい！」というのです。

VAK とは「VisualAuditoryKinesthetic」の略になります。



これはつまり、「視覚」、「聴覚」、「触覚」の事を言います。これをフルに使えば、人はモノを覚え易くなるというのです。

例えば、自分が読書をしていました。

その時、通常ですと文字を目で追い、頭の中で読むと思います。
これだと視覚しかありませんよね。

ですが、これを声を出して読んでみたらどうでしょう？

声を出すという事は、その声が耳に届く訳ですから、聴覚を使っていると言えます。という事は、今回の声を出しながら読むと言う事は、視覚と聴覚を使って文章を読んでいる事になります。

ここに出てくる紙に書くという作業は、手を使って行なう作業であるという事。触角を使って覚えて行きましょう！…という事なのです。

検証をする上で、一体、何を確認する必要があるのかを洗い出して行きましょう。

- エントリー日時
- エントリーレート
- ポジション（買い or 売り）
- ストップレート
- リミットレート（あれば）
- 決済日時
- そのトレードの損益
- 総損益

これらが検証時に使用するチェックポイントです。少なくとも、この程度はチェックしておきたい所です。

このチェックポイントと共に、チャートにある過去データから作り上げたシステムで一致するポイントを抜き出し、どんどんと記録をして行くのです。

参考フォーマットを以下の URL よりダウンロードし、プリントアウトをしておいて下さい。
これを利用すると、検証が楽に出来ると思います。

<https://www.box.net/shared/r51zkyhbms>

[▲目次へ戻る▲](#)

❖ 第5章：(3) ——検証結果データでシステムの良し悪しを考える——

検証する上で抜き出す必要があるデータについて書きました。

今度はそのデータを利用して、そのシステムの良し悪しを判断する方法を説明して行きます。それと合わせて、検証がより効率的になる方法も合わせて説明して行きます。

まずは大まかに分析が必要と思われる項目を抽出します。

- 勝率
- 利益率
- トレード回数
- P F
- 最大ドローダウン

これらをそれぞれ見て行きましょう。

[▲目次へ戻る▲](#)

1. 勝率と利益率の関係とその用法

そのシステムトレードを続けて行くと、勝ち易いシステム、負け易いシステムがあるのが分かって来るかと思います。

そして同時に、そのシステムはどの程度の利益を上げて行けるのだろうか…という判断も必要になって来ます。実はこの中で、勝率と言うのはある意味どうでも良いものなのです。

というのも、投資は利益を上げてなんぼの世界です。利益が上がらなければ、投資をしている意味がないのです。

ところが、勝率ばかりを追い求めると、どういった現象が起きるのでしょうか？

勝率を求め過ぎて、肝心の利益が出づらくなってしまふ…というシーンに出会う事がしばしばあります。コツコツドカンで利益がちょっとしか残らない…なんてよくある話です。これでは、とても効率が良いトレードシステムとは言えませんよね。

もちろん勝率はある意味で大切です。仮に勝率3割のトレーディングシステムがあったとします。これはつまり、10回、トレードチャンスがあったら、3回しか勝てず、他の7回は負けトレードという事です。という事は、最初に3連勝したら、後は7連敗するかも知れない…という問題をはらんでいます。

こういう状態に人間が陥った時、人はどう思うのでしょうか？

目の前で連続して負ける訳です。それを見ていると、とても我慢する事が出来なくなる可能性があります。そうなってしまったら大変です。どうにかして利益を出したい、どうにかして口座残高を増やしたい…というプレッシャーに苛まれ、トレード回数が増えます。

すると、最終的にはシステムを守れなくなってしまうのです。

だからこそ、ある程度の勝率を維持する事で、そういった精神状態になる事を回避させる意味があります。勝率はある意味大切ですが、**最も大切なのは、利益率です**。

【ファーストステップFX】Part1 第5章システムを調べる

つまり、勝率が低かったとしても、利益幅が大きければ、それはその人にとって、トレードするに値するシステムかも知れません。

利益率を失っても、勝率を取る事で心に優しいトレードをするか、勝率はどうしても良いから、とにかく利益が出易いトレードをするか…

システムトレードをする上で、これは必ず通るべき道の一つと言う事が出来ます。
なお当然ですが、勝率が高く、そして利益率も高ければ、それに越した事はありません。

[▲目次へ戻る▲](#)

2. 具体的なシステムの例

トレードをする上で自分に求められるのは、時間です。時間とは、誰しも持っているものですが、永遠ではありません。誰もが有限なのです。

そして、そんな時間を使っている訳ですから、投資をするのであれば、なるべく早く、そしてなるべく多く稼ぎたいものです。ところが自分が作り出したシステムは確かに勝率は高い、そして利益率も十分にある。これだけ見たら、優秀な部類に入ってくるでしょう。

しかし、一つだけ問題があります。

トレード回数が極端に少ないという事。

その作り出したトレードが、1 ヶ月に 1 回しかチャンスがないトレードだったら大変です。その 1 回の為に、ずーっとチャンスを待っている訳です。

もし仮にその 1 回をひよんな事から逃したとします。そうしたら、また 1 ヶ月、いつ出現するか分からないエントリーチャンスを待つ事になる訳です。

こんな事、これからも続ける事が出来るでしょうか？そう、この状態はとても厳しいモノです。ですので実際にシステムトレードを採用するとしたら、

【ある程度のトレード回数がある事】が前提となって来ます。

例えば 1 年間の検証の結果、トレード回数が 250 回のもものと 50 回のもものがありました。PF はほぼ同じである場合、**【どちらを採用すべきか？】**という観点から分析をしてみましょう。

※PF に関しては後述します。先ず考える事は「年間のトレード可能日数の計算」です。

【ファーストステップFX】Part1 第5章システムを調べる

1年間は52週と1日（ $365 \div 7 = 52$ 余り 1）で、※今回は簡略的に計算する為に、52週を50週と計算して行きます。

年間50週ある中で250回のトレードという事は、週に5回のトレードを行なうシステムになります。1週間でのトレード可能日は5日なので平均すると、毎日、トレードするシステムとなります。

また同じように50回トレードを行なうシステムの場合は、週に1回エントリーして行きます。

つまり、【毎日エントリーを行なうシステム】と【週に1回エントリーを行なうシステム】このどちらを採用するかという選択になります。PFがほぼ同じだったとしたら、後は自分の生活スタイルに合わせたものを採用して行けば良い訳です。

忙しくて、一日の中であまり相場を見る事が出来ない人にとって、毎日、エントリー出来るようなシステムを運用して行くのは難しいもの。

逆もまた同じで、ずっと相場を見る事が出来る生活をしているのに、週に1回のトレードを待っていると時間が余り過ぎて、システム以外の事をしてしまう可能性が増えます。

このように【良いシステム】が必ずしも【あなたにとって使い易い】ものとは限りません。

実際に運用する時の事も考えて、採用するシステムを選んでいく必要があります。

[▲目次へ戻る▲](#)

3. PF（プロフィットファクター）をチェックしよう

PF（ProfitFactor、プロフィットファクター）をチェックする事で、そのシステムトレードが良いものかどうかの指針にする事が出来ます。

そもそもPFとは、利益と損益の比率がどのくらいあるのかを表したものです。

計算式では、

$$PF = (\text{総利益}) \div (\text{総損失})$$

で表す事が出来ます。

例えばある期間の検証を行なった結果、その期間の利益になったトレードの合計が100万円と出ていたとします。そして損失になっていたトレードの合計が80万円と出ていたとします。この場合のPFは幾らになるかと言うと 100 （総利益） \div 80 （総損失）となり、 $PF=1.25$ となります。

では逆に、別なシステムを検証したとします。

その期間の利益になったトレードの合計が100万円でしたが、損失になっていたトレードの合計は130万円だったとします。

そうしたら計算式は・・・ 100 万円（総利益） \div 130 万円（総損失）となり、 PF =約 0.77 、となります。

さて、ここでシステムの良し悪しを判断するポイントとして、「PFが1以上あるかどうか」これがポイントになって来ます。

そしてこの時、1以上出ているのであれば、このシステムを続ければプラスになる…と考える事が出来ます。

【ファーストステップFX】Part1 第5章システムを調べる

逆に言えば、1 を切って来るようですと、それはマイナスのシステムであり、「システムの改善を行なう」、「そのシステムの使用を断念する」、といった対策が必要であると分かる訳です。

PF の理想値として、3 以上あると優れていると言われています。ですが、最初からそれを目指す事は非常に困難です。ですので、先ずは PF が 1 以上になるようなシステムを開発する、これに注力する必要があります。

[▲目次へ戻る▲](#)

4. 最大ドローダウンをチェックしよう

「そのシステムのドローダウンはどの程度ですか？」

こう聞かれたとして、すぐにその意味を理解出来る人は、案外、少ないかも知れません。

ですが、トレードに置いて、このドローダウンという言葉は非常に深い意味があります。先ず最初に説明しておきますと、ドローダウンというのは、「一定期間中に、自分の資金がどのくらい（の割合）で減ったのか」を知るための数値です。

例えば、10%のドローダウンが起きた場合の資金変化を考えてみましょう。
もし仮に 100 万円の資金だった場合、

$$100 \text{ 万円} - (100 \text{ 万円} \times 10\% (0.1)) = 90 \text{ 万円}$$

つまり、100 万円に対しての 10%ドローダウンと言え、90 万円になった事を言います。

もし仮に 200 万円の資金だった場合、

$$200 \text{ 万円} - (200 \text{ 万円} \times 10\% (0.1)) = 180 \text{ 万円}$$

つまり、200 万円に対しての 10%ドローダウンと言え、180 万円になった事を言います。

これが、ドローダウンになります。

さて、そんなドローダウンですが、その中でも最も重要なのが、「最大ドローダウン」と、「何度、大きなドローダウンが発生したのか」を知る事です。

先ず始めに、最大ドローダウンとは一体、何でしょうか？

それは、ドローダウンの中でも、一番大きいドローダウンを指し示す用語になっています。

何故、これを見る必要があるのかと言うと、そのシステム自体が起こし得る**最大のリスク**を、この指標を見る事である程度、判断を下す事が出来るのです。

つまり、このトレードの**最大のリスク**は、この**程度のマイナス**だな…と判断を下す基準になるのです。

このシステムが抱えているリスクが自分にとって許容出来るものなのかどうか、判断する事が出来る指標なのです。

これで、単純に 10%のドローダウンが発生するシステム A と、20%のドローダウンが発生するシステム B があったとします。それぞれのシステムの損益は同じ。

だとしたら、自分はどちらのシステムを選ぶべきでしょうか？

ドローダウンが低い方が、単純にリスクを回避しやすいシステムと言う事が出来ます。ならば、当然 20%よりは 10%を選ぶ必要がある訳です。

※一般的に最大ドローダウンが 30%を超えるシステムは、ハイリスク／ハイリターンである傾向が強いです。最低でも 20%台に最大ドローダウンを押さえられると良いでしょう。

次に「**何度大きなドローダウンが発生したか**」とは一体、何でしょう？

システムの履歴を翻って見て行くと、大きくドローダウンしている所が幾つか見つかると思います。

仮に最終的に資金が増えて行くとしても、その過程で起きた大きなドローダウンを、果たして自分は許容する事が出来るのでしょうか？それが少ない数ならばまだ分かります。

ところが、それがある程度発生するとしたら・・・発生回数が多い場合、それはそのまま使用している人間のメンタルに強く影響を及ぼしてしまいます。

何度も大きく減って行く様を見る事自体が、強いストレスとなってしまうのです。



ドローダウンの回数は少なければ少ないに越した事はありません。

リスクの許容度は人によって違うので、どの程度なら、どれくらいの回数なら、問題ないのかと言う指針はありません。

投資をするという事は、必ずドローダウンが発生するという事です。これを避けて通る事は出来ません。

検証し導き出されたドローダウンから、果たして自分が許容出来るシステムかどうかを考えた上で、システムトレードを選んで行く必要があります。

[▲目次へ戻る▲](#)

5. Excel等の表計算ソフトを使って効率的に調べて行こう

手で書いた検証データを基に、MicrosoftExcel等の表計算ソフトを利用する事でより効率的に調べる事が出来ます。

複雑ではなくてもシステム内に計算式がある場合、Excelで計算させる事で、そのシステムの幅を広げる事が出来ます。例えば移動平均線を使ったシステムを考えたとします。

○基礎ルール○

▼買いルール

10日MAが20日MAに対してのゴールデンクロスで買いエントリー。
デッドクロスで買いポジションクローズ。

▼売りルール

10日MAが20日MAに対してデッドクロスで売りエントリー。
ゴールデンクロスで売りポジションクローズ。

このようなルールがあったとします。

これをローソク足1本1本見ながらやって行くと、非常に時間が掛かります。10日と20日で調べた結果、マイナスの成績だったとします。

ならば続けて5日と20日に変えてみたらどうなるだろう…と考えても、10日と20日で調べた検証時間とほぼ同じだけ時間が掛かってしまいます。

※offsetという関数を使う事で、期間を可変させる事が出来、その結果、成績の変化を見る事が出来ます。

これではとてつもない時間が必要です。

そこで、Excelに搭載されている関数を駆使する事で、これをあっという間に調べる事が出来ます。先に述べたように、いつエントリーして、いつ決済するかさえ出来ればそれがシステムです。

それが、Excel に落とし込めればいいのです。

Excel が使えるようになれば、検証時間の短縮、検証ロジックの変更を効率的に行なう事が出来ます。

そして、単純な計算間違いがなくなる為、ヒューマンエラー（人間の手による誤り）がなくなります。※ただし、ルールが複雑になればなる程、Excel の計算式を間違い易くなりますので注意が必要です。

Excel の使用方法に関しては、書籍を買う必要はありません。

解説サイトが沢山ありますので、自分がどんな計算をさせたいのか、そこから Excel で使用する関数を覚えて行くと良いでしょう。

参考サイト

よねさんの Word と Excel の小部屋

<http://www.eurus.dti.ne.jp/~yoneyama/>

[▲目次へ戻る▲](#)

❖ 第5章：（4）——検証をすると獲得出来るモノ——

検証をする事で、そのシステムの良し悪しが見えて来る訳ですが、それ以上に自分にとって得られるものが幾つかあります。それを簡単に説明して行きましょう。

☆トレードルールを頭に叩き込める

受験勉強をする時に、真っ先にした事は何でしょうか？
それは、繰り返す事でしたよね？

問題集を繰り返し解く。暗記カードを作って、ひたすら暗記を繰り返す。これはそうする事で、自分の頭の中に記憶出来るからです。

トレードルールが出来たとしても、それを覚えていなければシステムトレードは出来ません。毎トレードごとにルールを確認し続けるのは、面倒臭いものです。

そこで、自分の体にそのトレードルールを刷り込ませる必要があります。そうすれば、一々、トレードごとに調べる手間がなくなり、自然とトレードチャンスがどこなのかを見て行ける訳です。

☆相場観を養える

検証をするという事は、チャートとにらめっこする事になります。

そしてそんなにらめっこを続けていると、不思議とチャートの動き方に癖があるのを気付く時があります。「あれっ？こういう動きをする時、何だかその後はこうなるよな～」といった感触です。

世にいる天才トレーダーと呼ばれる人々は、こういった相場の動きを見て、感覚的に何かを読み取っているのだと思います。

我々はそこまでの感覚は身に付けられませんが、チャートを見る事で、何らかの違和感を感じる事が出来ると思います。

その感覚を身に付ける最適な方法が、数多くの検証をこなす事。

そうする事で、必然的にチャートを見る時間が増え、そこに何らかの空気感を感じる事が出来るようになるでしょう。

☆新たなシステムの気付きが得られる

見知らぬ土地を歩く事になったとして、その中で目的地があったとします。そうしたら先ずはとにかく、一番分かり易い道を選択すると思います。

何と言っても知らない土地ですし、下手に変な道に進んでしまうと、迷ってしまい、目的地に辿り着く事が出来なくなってしまうかも知れませんから。

けれど、ある程度、その道に慣れて来ると、もっと早く目的地に着けないものかと考えるでしょう。人は出来るだけ楽したい、出来るだけ早くしたいと考えるものですから。

そこで、注意深く観察していると、いつも通っていた道の端に、小さな道があるのに気がきます。もしかするとその道は、目的地に早く着けるんじゃないか？
そう考え、試しにその道を進んでみます。

するとどうでしょう？今までよりずっと早く着く事が出来る道だったのです。そうしたら、今度からその道を使うのは当然ですよ？検証を続けていると、ふとそんな横道がある事に気がきます。



【ファーストステップFX】Part1第5章システムを調べる

「アレ待てよ、こうしてみたらどうだろうか？」と言った感じですね。

するとどうでしょう？その気付きから出たアイデアを基に、システムが改良されていくのです。

もちろん横道に逸れてみた所で、それが実は更に遠回りだったという事もよくある話です。ですが、為替の世界にはそんな横道が沢山あります。

その道がショートカット出来るかどうかは、行ってみないと分かりません。けれど、より多くの利益を求めているのならば、そんな横道に足を向かわせる事が必要となって来るのです。

[▲目次へ戻る▲](#)

❖ 第5章：(5) ——そこまでして検証をする理由——

検証の大切さを幾ら説いても、95%の人はやりません。実際にこれを読んでいる方々も、95%は恐らく検証しないでしょう。

残りの5%の利益を上げている人たちと、利益を上げる事の出来ない95%の差は、「検証を実際にしたかどうか」です。

儲かるシステムが簡単に出来上がる事は実際問題、非常に稀です。その割には、検証に掛かる時間は膨大です。これは自分が試されていると言っても過言ではありません。

そもそも、投資の世界で成功したいのならば、これくらいやって当たり前です。それが出来なければFXを止めて、サラリーマンとして働いた方が有意義だと思います。

ですが、どうしても今の自分を変えたい、どうしても環境を変えたいと考えるのならば、やるべき事をやる覚悟を持つ事が大切です。

投資に置いてやるべき事とは、「**検証作業**」という事ですね。

[▲目次へ戻る▲](#)

❖ 第5章：(6) ☆★☆☆第5章のまとめ☆☆☆

- ・ 検証とは、そのシステムが勝てるシステムなのか負けるシステムなのかを、チェックする機能である。
- ・ 検証する為に必要な項目をしっかりと覚えておこう。
- ・ 検証が終わったシステムを分析する事で、そのシステムトレードの特徴が見えて来る。
- ・ 検証は、相場観を養える最適な手段である。

[▲目次へ戻る▲](#)



**Part1 一流トレーダーへの道を進む為に
第5章 システムを調べる
株式会社チャートマスター**